

やりたいことのために資格に挑む

職場の理解も後押し

「皆さんは仕事柄、働きながら現場に関わる資格を取得、または取得を目指し努力しているわけですが、資格に関するエピソードや、日ごろ思っていることはありますか。」

■藤田 専門学校に通っていた先輩らから過去の問題集などをもらい、休み時間や就業後に勉強していました。やはり資格を持っていないと仕事になりませんので。試験前には上司が残業にならないように手伝ってくれたこともありました。仕事を終えた後の勉強は、だいたい2時間くらいです。



井戸産業 藤田昌英氏

■榎本 資格取得を目指したのは、自分のビジョンが明確になったことと、会社のニーズに応えるためでした。先輩方が施工管理の資格を持って、自分で現場の管理をしている姿を見て、私もそうなりたいたいと思い1級土木・2級建築施工管理技士の資格を取得しました。いつまでも誰かの下でやるというわけにはいきません。日々の業務をこなしながら勉強を続けるのは大変ですが、そこに向かってどれだけ頑張れるかが大切であって、自己実現のためには避けて通れない道です。

■金子 私は土木施工管理技士を取得した時は参考書などを活用し、舗装技術者に関しては、仕事上さらに専門学校の資格取得講座を受講しました。経費は会社が負担してくれたのでありがたかったです。現場の責任者として自立するためには、確かな技術はもちろんですが、しかるべき資格がなければ、誰かのサポート役でしかなく貢献度も低くなってしまいます。ただ資格取得がゴールになってしまっただけは無意味です。工事を無事に完成させ、お客さまや社会に評価され、利益をもたらすことが大事であり、資格を取った後も現場で常に学び知識を得て、任された業務を全うするため創意工夫し続けることが大切です。

■櫻井 私は昼休み、現場の車の中でお弁当を食べ終えた後も勉強していました。やりたい仕事をするために必要な資格を取るの当然です。でも資格があれば、それで済むわけではなく、車の免許に例えるなら、同じ免許を持っていても運転レベルの差があるように建設業界も同様です。確かな技術が伴ってこそそのプロであって、経験を積み、技術の向上に励むことが大切です。そうした意欲ある社員のため、私の会社では資格取得のための社内学習会や、外部講習会への参加などを積極的に勧めています。試験の時期が近づくと、週末は社長や先輩社員が講師となり学習会を開催してくれます。

■菊池 私はまだ入社6カ月なのでこれからです。試験は23歳にならないと受けられないので、しばらくは現場で先輩に教わりながら勉強していきます。まずは2級土木施工管理技士

を目指します。私の職場でも技能講習、特別教育が取得できるように協力してくれていますし、先輩から指導やアドバイスをもらっています。

■寺内 土木系の基礎知識がなかったので、まずは専門用語や法規的な知識を学ぶために、関連書籍を読んだり先輩に聞いたりしていました。建設業にはたくさんの資格があるので一つずつチャレンジ中です。有資格者の先輩が参考書を提供してくれたり、試験問題のポイントなどを教えてくれたりします。



榎本建設 榎本菜月氏

意欲に結果がついてくる

「現場でしか学べないことが多い一方、座学や講習会・勉強会の機会も不可欠です。特に建設業界は、そういった側面が大きいのではないですか。」

■櫻井 私も業界に入ってから、先輩に付いて一から教わってきました。各現場での仕事のスタイルといったものは、どの企業でも継承されてきた事だと思います。しかし、OFF-JT（オフ・ザ・ジョブ・トレーニング＝通常の仕事を一時離れて行う教育訓練）は、業界としての取り組みは、まだ不足しているのかなと思います。学習会などを設けても、費用対効果という面では難しい面もあると思います。うちの会社も思案しているところです。皆さんの会社での取り組みなどを教えていただけるとありがたいです。

■岩原 確かにOFF-JTは進めるべきですが、地方企業の実態から考えると各会社で講師を呼んだり、社内で講師を育成するというような事は、現実的に不可能であって専門学校といった社外の力を借りて、各自の負担は給与や手当てなどでフォローするのが現実的であって、そうせざるを得ないと思います。その一端を、協会などでもバックアップできる態勢ができればいいと思います。今後、協会としても取り組むべきことのひとつではないかと思っています。

「建築科、土木科などを経て入社した同世代の社員とはスタートラインが異なる皆さんは、苦勞することも多かったのではないですか。」

■金子 そんなに苦勞したというのはありません。うちの会社にも若手社員がいますが、専門の学科を学んでも、いなくても、苦勞は一緒じゃないかと思っています。私も高校卒業して18歳で業界に入って、入社1年目の11、12月から「現場やってみる」と言われ、何も分からない状態



松本建設 金子真輔氏

現場での活躍風景



井戸産業の藤田氏「地域経済を支える建設業として今日も社内安全パトロール中」



榎本建設の榎本氏「歩道内に共同溝ボックスを設置するための位置出しを行う」



松本建設の金子氏「県内初となるICT活用工事。五行川遊水地掘削工事」

